### 様式第3

# 会 議 録

会 議 名	第3回野田市鈴木貫太郎記念館再建基本計画策定専門委員
	会議
議題及び議題毎の	1 鈴木貫太郎記念館再建基本計画案について(公開)
公開又は非公開の別	2 その他
日時	令和7年8月22日(金)
	午後2時から午後3時20分まで
場所	市役所低層棟4階 委員会室
出席者氏名	委員
	菅根幸裕(議長)、下津谷達男、四柳隆、櫻井良樹、
	山本和也、澤田修、筑井正
	職務上の意見等を伺うため出席を依頼した職員
	宮﨑等(市史編さん担当)
	事務局
	鈴木有(市長)、今村繁(副市長)、金子正道(市政推進
	室長)、野本勝大(市政推進室主任主査)、笹川知樹(市
	政推進室主任主事)
欠席委員氏名	岩岡竜夫
傍 聴 者	2名
議事	第3回鈴木貫太郎記念館再建基本計画策定専門委員会議
	の会議結果(概要)は、次のとおり。
市政推進室長	1 開会
市長	2 市長挨拶
	理念案について、事務局が再検討した案を提示する。
	第1回会議において項目案として示した項目のうち、展
	示計画、集客交流計画、管理運営計画についてまとめてい
	る。忌憚のない意見をお願いする。
•	·

# 市政推進室長 議長

議事の進行について、議長に依頼

### 3 議事

議題1「鈴木貫太郎記念館再建基本計画案について」 事務局に説明を求める。

### 市政推進室主任主查

再検討した理念案について、新記念館の目指す姿から、郷土の偉人鈴木貫太郎の功績、「永遠の平和」に代表される平和への思いを継承し未来へ繋いでいくこと、関宿地域の活性化を促進し、繰り返し多くの人々に訪れていただける施設という点から考えたことを説明

第4章「展示計画」の展示テーマについては「郷土の偉人 鈴木貫太郎の功績と想いを伝え、未来へつなぐ」とし、その実現に向けた構成を説明。常設展示は導入、通史、エピローグの三部構成とし、生涯や終戦への功績、晩年の関宿での活動を紹介することを説明

企画展示では常設で扱いきれないテーマを深掘りし、関係 人物や他館との共同展示、野田市との関わりなど多様な切 り口から展開することを説明

敷地内の旧宅跡やゆかりの地の巡回コースの整備、多様な来館者に対応する解説、子どもや高齢者にも分かりやすい展示方法、障がい者や外国人に配慮したインクルーシブ対応、多言語対応やユニバーサルデザインの導入を行うことを説明

第5章「交流計画」について、記念館を地域住民にとっての学びと交流の場、市内外の来訪者にとって平和を考える拠点とすることを基本方針とすることを説明。具体的には、住民の写真や手記を募集して展示に活用し、体験型・参加型プログラムや講座、親子向けイベントを実施。さらに、平和祈念施設や他の歴史関連施設と連携し、共同イベントを開催。また、交流スペースを設け、資料の自由閲覧

や地域情報の掲示などを通じて日常的に立ち寄れる拠点と することを説明

第7章「管理運営計画」の基本方針について、野田市の 文化交流拠点としての役割を果たし、展示や活動を通じて 地域の魅力を発信すること、効率的な運営とボランティア やファンの創出と支援体制の組織化等を進めること、博物 館に求められる機能性を満たした上で、空調管理などラン ニングコストの縮減に努めながら、運営効率の高い取り組 みを実施することを説明

管理方式は直営、指定管理者制度、PFI方式などを検討し、他の事例を参考に、工程計画や補助金の条件を満たすことを条件に最適な方法を採用することを説明。運営組織は館長のもと管理・企画・交流部門を整備し、ボランティア養成も行うことを説明。開館は年間150日以上、午前9時から午後5時を基本とし、入館料については他施設の状況を参考に決定することを説明

第8章「工程計画」について、令和8年度から建築・展示の実施設計を行い、令和9年度から建築工事・展示工事を進める予定であると説明

資料説明について、意見はないか。

第8章の工程計画について、令和10年度にはオープンということだが、現在の記念館の閉館時期及び取り壊す時期を、できる範囲でいいので教えていただきたい。

今年度、基本計画を作成し、来年度、詳細設計を進めたいと考えている。その中で、仮に設計・施工を一括で発注した場合、令和8年度に設計を進めながら、取り壊す時期を見定め、閉館時期を決めなければならないと考えている。現時点で言えることはこの程度で、実際の閉館時期については決めていない。

議長

筑井委員

市政推進室長

筑井委員

マスコミ等で紹介されていることもあり、お客様が多く、半年先ぐらいの電話予約等もある。いつ頃、閉館になるかが分かれば、お客様の問い合わせ等に対しても対応できるので、分かり次第連絡をいただきたい。

議長

四柳委員

理念案について説明があったが、何か意見等はないか。

新しく出していただいた理念案には「永遠の平和への思い」という文言が入ったことによって、方向性がはっきり したと思う。

新しい理念案の最後が「にぎわいの拠点」という表現になっているが、博物館法上の登録博物館を鈴木貫太郎記念館は目指すとしていることから、以前示されていた「文化・交流の拠点」の表現の方がふさわしいと思われる。また、交流の中には「にぎわい」という要素も含まれてくるので、こちらの方がよいと思う。

山本委員

私も四柳委員の意見に賛成する。隣接する広場に整備する計画がある川の駅の方が「にぎわいの拠点」というイメージがある。そういう点を考えると、記念館の理念については「にぎわい」は除いたほうがよい。

議長

確かに「にぎわい」が必要というわけではない。ただ、 博物館法において、博物館には文化観光分野での活動も期 待されている。文化観光という意味合いで「にぎわい」と を入れたのかどうか、補足していただきたい。

市政推進室長

鈴木貫太郎記念館の再建は、関宿北部地域の活性化策の一つとして位置づけており、現在、併設した土地に「にぎわい」的な施設として川の駅の整備を進めていきたいという構想もある。そういった中で、活性化を担うために「にぎわいの拠点」という案を提示した。しかし、四柳委員と山本委員のご意見のとおり、登録博物館を目指す以上は「文化・交流の拠点」の方が理念としてふさわしいと思

う。委員の皆様にご了承いただければ、「文化・交流の拠 点」に変更したい。

理念の文言の修正について異議はないか。

異議なし。

展示内容について、意見を伺いたい。

下津谷委員 P5②通史展示「鈴木貫太郎の生涯」の図表の「1. 関宿

藩と少年貫太郎」とあるが、これは堺市の代官所にあたる か。そこに、鈴木家あるいは関宿藩に関する資料があるの か。それから、石高はどのくらいだったのか調査をしてい ただきたい。もし、今分かっているのなら、教えてほし い。また、少年時代というが、幼少時代のことではない か。当時の貫太郎や家族に関するものがどれくらい集めら れるのか。

下津谷委員の質問について説明いただきたい。

堺の代官所について、現在、鈴木貫太郎の生誕の地の石 碑が残っている。また、近隣の多治速比売神社に貫太郎が 寄贈した玉垣など、石造物関係でもいくつか資料が残って いる。そのほか、関宿藩時代に御用聞きをされていた中辻 家のお宅には、貫太郎の書がいくつか残されていると聞い ている。

また、堺市博物館も貫太郎の書簡を所蔵しているよう で、堺市博物館の学芸員が研究誌に書いている。現状で把 握しているのはその程度である。今後、資料の調査を進め る上で、さまざまな機関との連携をより進めていきたい。

堺の資料を複製や借用により、展示の充実を図っていく ことも大事だ。他に意見はないか。

P7、8の表が、さらに細かくなっていくような感じで 展示計画が作られていくと思っている。

通史展示が五つの部分に分かれているが、年齢、西暦年

議長

議長

一同

議長

市政推進主任主事

議長

櫻井委員

次を自分なりに入れてみた。「1. 関宿藩と少年貫太郎」 は1868年から1884年までの16年間、「2.海軍時代」は、 1884年から1929年までの45年間、「3. 侍従長時代」は、 1929年から1936年までの7年間、「4.内閣総理大臣時代 ~枢密院議長時代」は1945年の1年間で78歳、「5.晩年 の活動とその広がり」は80歳で亡くなるまでの2年間にな った。こうして気がついたことは、「2.海軍時代」が長 いということ。今の表ではそれぞれのところに時代背景が 入っていないが、時代背景を入れると「2.海軍時代」が 非常に長くて、時代が変わりすぎるところもあると感じ た。「2.海軍時代」は明治期と大正期を分けた方がいい と感じた。貫太郎は1914年に海軍次官になっているが、ち ょうどその年に2番目の奥さんと結婚している。それか ら、次官、連合艦隊の司令長官、軍令部長という海軍の高 官時代というので大きく分けることができるのではないか と思った。それはちょうど大正期が始まった時と関わりを 持っている。明治の背景が書かれて、大正の背景を書いた 上で、侍従長の昭和というようにつながっていく。

そして、侍従長を辞めたのが1936年で、首相になるのが1945年なので、9年間空白がある。その9年間をどういうふうに扱うのかが気になった。侍従長時代に続けるのか、後の時代と一緒にするのかが問題だ。

大変詳しく調べていただきありがたい。櫻井委員の指摘 通りだが、貫太郎翁を顕彰するという意味があるので、や はりここでは「平和」を表に出した方が良いと思う。例え ば、1945年4月から8月までの内閣総理大臣時代、一撃講 和論をいかに押さえつけたか、阿南惟幾をいかに押さえつ けたかといった、ものすごい功績がある。そういった功績 を中心に考え、平和ということを基本として、その前後に タカ婦人を含めてまとめていくというのも一つの方法とし

議長

て考えられる。日本を焦土から救ったと、功労者であること、鈴木貫太郎でなければできなかったことであるということを中心に伝えていくとよい。いずれにせよ、年表は絶対必要。

市史編さん担当

基本理念は博物館を運用していく上で非常に大切な部分で、根本的な考え方や、価値観、存在意義を示すものである。基本理念の「鈴木貫太郎の功績」という書き方は、具体的ではないように思う。たとえば、鈴木貫太郎の生涯として、日露戦争時の職業軍人としての功績もある一方、平和と復興への道を開いたという功績もある。この辺りについては、議長の意見と同じく、平和と復興への道を開いた功績を中心としたことが具体的に示されたほうがいいと思う。

四柳委員

議長、市史編さん担当の意見に賛成。ただし、海軍時代に関しては、日露戦争時の日本海海戦の話や、戦争の事実の記載が必ず出てくる。せっかく「永遠の平和」という方向を向いているので、戦勝を美化するような内容にならないように留意していただきたい。

議長

学芸員を専任で任用することをお願いしたい。県内でも 最近そうでないところが非常に多く、由々しき事態だと考 えている。専任の常勤の学芸員をしっかり任用し、研究を 続けていくということが必要になっていくので、それだけ はお願いしたい。

管理運営および入館料、管理運営計画に関して、意見、 質問等はないか。

澤田委員

将来につないでいくために、子どもたちにはどのように 教えていくのか。1週間に1回、1時間ぐらいは野田市の 歴史を教える時間を設けていただきたい。少しでも教えて いかないと、子どもたちが離れていく。子どもたちは、間 違った話でも、まともに聞いてしまう。1週間に1回ぐら いは、野田市の特別な授業があってもよい。また、子どもたちが、外国語で話せるようになるよう、貫太郎記念館で教育できればと思う。このようなことも商工会でも勉強しながら、少しでも子どもたちとつながりを持ち、良い平和のまちをつくっていきたい。

筑井委員

関宿小学校と関宿中学校で、年に一度、子どもたちを対象に鈴木貫太郎について勉強会を行っている。ただ、学校

の授業のため、45分から50分と時間が限られている。最近 は、子ども達からどんなことを聞きたいのか、事前に質問 をもらって、それに対して説明を行っている。なるべく戦

争の話よりも、鈴木貫太郎が行ったことを中心に説明している。10月は関宿中学校、7月は関宿小学校で実施してい

る。この勉強会は、澤田委員の要望のとおり、どんどん増

えていかなくてならないと思っている。

議長

P10(5)に「小学校4年生以上での学習する漢字には ルビを振る等の対応を行い、できる限り分かりやすい文書

とします」とあり、対象は小学校4年から高齢者までとい

うことになっている。もちろん、授業等でも含めて盛り込むことは大事だが、ここが一番難しいところだ。難しいこ

とを易しくするのは難しい。小学校4年以上というが、どれだけの知識を持っているのか。たとえば、小学校4年生

は、太平洋戦争や第二次世界大戦について理解しているの

か。これは詳細設計に入るかと思うが、そういったことを

踏まえ、詳しく文章を吟味し、分かりやすくしなければならない。 政治的な話になる上、集約された人間の話になる

と難しくなる。例えば、終戦の詔勅の複製等、実物を活用

し、終戦について分かるようにすると良い。

櫻井委員

海軍にしても、陸軍にしても、軍とは本来戦うための組織である。鈴木貫太郎は、終戦、平和に導いたということ

と、軍人であったということを上手くつなげて展示をする

ことが必要だ。その場合、鈴木貫太郎が海軍の高官だった時代の第一次世界大戦後の世界が、世界平和をどのようにして作っていくかを追求していた雰囲気が前面に出ていた時代であったという点が、終戦の時の判断につながっていると考える。最近の日本近代史、特に軍事史の分野では、大正期の軍は戦うための軍隊というよりは、平和維持の方向に働いていたという見方がある。大正期は鈴木貫太郎にとって重要だったのではないかと感じている。

議長

展示内容について色々な意見があったが、事務局からは 何か意見等はないか。

鈴木貫太郎は、天皇陛下から大変ご信頼を得ていた。内閣総理大臣の任命について、天皇陛下から事前に直接請われたというのは異例なことである。そして、貞明皇后からも非常に信頼されていたという。そういった人物になる過程に、海軍時代のことなども関係していると考える。過程についても、展示に落とし込めると良い。

基本計画案については、本委員会で決定するということでよいのか。

市長

今日の結果をまた次の委員会でお示しして、最終的に決 定することになる。

議長

整備プラン案について、説明をお願いする。

市政推進室主任主査

整備プラン案を3案にまとめた。委員から意見をいただき、基本設計を進めていく上で検討すべき点を整理することを説明

A案については、1階に収蔵庫、2階に展示室を設置する2階建て案であることを説明

1階の収蔵庫は水密性を確保し、2階の展示物は浸水深以上の高さとすることで、水害時に収蔵庫及び展示物を避難せずとも、対応可能な施設とするもので、また、階高を

生かした二層構造の収蔵庫も考えられる一方で、浸水対策の費用の増加や、来館者は必ず2階へ移動する点、来館者と収蔵品の管理で動線を分けることを考えた場合、エレベーターは2基設置する必要があるなどのデメリットがある点について説明

B案については、1階の展示室、2階に収蔵庫、機械室 を設置する2階建て案であることを説明

水害による浸水が想定される際は、1階の展示室で展示している絵画等を2階の収蔵庫に移動する対応が必要になること、収蔵庫の安全は確保されること、エントランスや展示室が1階にあるため、一体的に開けた施設としての活用が考えられることを説明

C案については、平屋の案であることを説明

収蔵庫の水密性を確保する必要があるため対策費の増加が見込まれること、展示物の水害が想定される際は移動する必要があること、高低差解消のため敷地の東側の用地の埋め立てが必要になること、メリットとしては、エントランスや展示室が近いことから開けた施設としての活用が考えられることを説明

いずれの施設も約1000㎡の施設案であること、トラック ヤード等は西側に設置していること、B案については、西 側から入り、北側に設置することも可能と考えていること を説明

整備プラン案に質問や意見はないか。

来館者用の入り口はどこか。

A案は建物の中心の南側がエントランスになる。B案は建物の東側、展示室の東側にある。C案は、建物の中央部分の塔付近になる。今回は、2階建て構造か平屋構造か、また、2階構造の場合は展示室は1階とするか2階とするか検討する案を示した。

議長 筑井委員 市政推進室長 議長

櫻井委員

議長 丹青社 展示室やバックヤードの配置など詳細については、イメージとして持っていただくために作成したもので、エントランスの位置等を含めて、整備プランの平面計画については決定事項ではない。本日は、あくまで「平屋か、2階建てか」といった形で委員の率直な意見をいただきたい。

トラックが入るには狭い気がする。個人的には、外観上は平屋の方がいいと思う。委員からは意見はないか。

収蔵庫は水に濡れない方がいいし、展示を見るには1階の方が入りやすくていいので、大変迷うところだ。水密対策ができるならば、C案がよいかと思う。展示物を片付ける際に、2階から下ろすよりは1階のほうが早い。記念館は浸水したことがないと思うが、やはり水は怖い。

丹青社から補足説明をいただきたい。

A案に関しては収蔵庫が1階、展示室が2階という形で基本的には水について考慮するかしないかということが、大きな判断になる。現在、ハザードマップでは、堤防が決壊した場合、6~7mぐらい浸水すると想定されている。最大水位に上がっていくのに7時間ぐらい位かかるというが、膝ぐらいの高さまで達すると、人の避難も難しくなり、物を動かせるといった状態ではない。

展示室が床上浸水すると、カビの対策など大変なことになるのは間違いない。

収蔵庫を1階にしているA案について、収蔵庫に関しては入口を一つにする。それなりの費用はかかるが、前室の扉、収蔵庫扉ともに、水密用の扉を作ることは技術的に可能である。都内に一件、国重要文化財が入っている収蔵庫の事例がある。これも計画上、どうしてもそこでないとできないということで、文化庁等と調整した結果、水密ハッチを設けるという予報があったときに、水密ハッチを閉め

て、臨時閉館等の対応をすればよい。 2 階の展示室は浸水 高さより上にあるため、基本的には通常の対応で済む。

B案は、収蔵庫は2階なので、収蔵庫の水密対応は必要ない。一方、展示室は、入り口や避難口、換気口などがあり、水密への対応は建築的に非常に難しい。したがって、あらかじめ浸水可能性を予測して2階に展示室資料を上げなくてはならない。最近は線状降水帯とか一挙に水量が上がっていく場合もあり、どのタイミングで逃がすのかの判断に迷うおそれがある。いずれにしても、床上浸水する前にスタッフが退避する必要があり、場合によっては展示物を避難させる作業ができずに逃げなくてはならない可能性もある。

エレベーターに関しては、通常、展示資料等はエレベーターを使って運ぶ。博物館法による博物館であれば、通常、エレベーターは用途で分けなければならない。A案とB案でエレベーターの金額の差異は生じない設計を提案している。

水のことを考えなければ、平屋のC案が一番良いが、水のことを考えると、収蔵庫は対策できるが、展示室は難しい。ただ、櫻井委員の意見のとおり、1階から2階に逃がすよりは平面的に逃がせる方がよい。したがって、B案よりC案のほうがよいかと思う。

建設費について。地盤があまりよくないため、杭の工事が発生する。C案は平屋のため建築面積が増え、杭工事の費用が加算される。

令和元年に川崎市民ミュージアムで水害により資料にかなり被害があった。それは水密性についてあまり考えていなかったためだ。様々な点を考えると、A案が一番博物館的にはよいと考える。しかし、平屋のほうが分かりやすい。難しいところではあるが、ここで決めるわけではない

議長

ので、委員からも意見をいただきたい。 筑井委員 利根川は、茨城県で渡良瀬川と合流して関宿を流れ、江 戸川と分かれる。利根川の流れを考慮すると、関宿が決壊 することはほとんどありえないと地域の人に話している。 費用はかかると思うが、C案の方がしつくりくる。 水害のことがなければ、平屋のC案がよい。平面でイン 四柳委員 クルーシブ対応もしやすく、垂直移動がないので使い勝手 が良い。2階建てならば収蔵庫が上のB案のほうが安心だ が、1階の収蔵庫がそのまま水の対策もできるということ であれば、心配ないかと思われる。C案、A案、B案の順 がよいと考える。ただし、水害対策については、万全を期 しておくべきだ。 下津谷委員 3案を通して、右側の集乳所がある場所は、2mくらい 下がっているが、駐車場に使うのか。トラックの搬入口に ついて、広場側から入ってくることになると思うが、トラ ックを誘導する場合の広さが足りないのではないか。3案 ともこれらの点ついてもう少し考える必要がある。 個人的には、1階建てが理想的だ。2階建てにすると多 少不便であるが、水害の問題を考えると2階建ての案を取 らざるを得ないかと思う。機械室は2階に上げておかなけ れば、万が一の時には全体が動かなくなる。そういうよう な問題も考えておく必要があるだろう。 トラックの動線については、この図面では物足りない感 じがするので、再考してほしい。 議長 トラックの搬入は大事なところだが、敷地の制約で十分 なものができないかもしれない。ただ、この図面だと下津 谷委員の指摘どおり、きついように見える。 水害を考慮するとA案がよいが、使い勝手を考えるとC

案がいちばんよいと思う。

市長

図面として、配置図と立面図がないと、なかなかイメー ジしにくい。あくまでも、ここにこういうのを建てるとい うだけで、下津谷委員が懸念された荷解きの場所も、極端 にいえば、建物を少し右に寄せればかなりスペースができ る。実際どの程度のスペースになるかは、詳細な図面を書 かないと検討できない。集乳所と書かれているところは、 これから更地にして駐車場用地にする。盛り土の程度につ いては、表の県道の高さを考慮すると、あまり高くするこ ともできない。

議長

市政推進室長

下谷津委員

市長

委員の意見を踏まえて、詳細について検討してほしい。 その他について、事務局からの説明をお願いする。

委員の慎重な審議、貴重な意見に感謝する。

基本計画の理念や展示計画について、委員の意見を反映 し、事務局で再度修正し、基本計画の素案として取りまと めた上で、次回の専門委員会議に諮りたい。

整備プランについては、基本計画をもとに基本設計にお いて進めていきたい。その際は再度、個別に委員から意見 をいただくことも考えている。

P6に、計画の柱として、現在の鈴木貫太郎記念館を作 るために動いた人たちや、当初の記念館を作った経緯を加 えたほうがよい。展示の中の小さな項目として出すのでは なく、大項目として記念館を作ったという経緯を示してほ しい。それに関する資料もかなりあると思うので、そうい うものを活かすような方策について検討いただきたい。

記念館の再建なので、最初の経緯というのはしっかりし た形で示さなければならない。また企画展で、鈴木貫太郎 記念館設立までの経緯と、関わった方々も紹介したことが ある。再建も、記念館設立があって始まったものである。 その辺はしっかりと取り上げていきたい。

議長	他に意見はないか。
	無いようなので、以上をもって第3回野田市鈴木貫太郎
	記念館再建基本計画策定専門委員会議を終了する。